

2006年11月2日

プレスリリース

本資料は11月2日にチュ
 ーリッヒで発表されたプレ
 スリリースの翻訳版です

**クレディ・スイス・グループ
 2006年第3四半期および1-9月期業績を発表
 1-9月期純利益67億スイス・フラン
 第3四半期純利益19億スイス・フラン**

クレディ・スイス・グループは、本日、2006年第3四半期の業績を発表しました。それによ
 ると、2006年第3四半期は18億9,200万スイス・フラン（以下CHF）の純利益を計上しまし
 ました。前年同期の純利益は19億1,800万CHFでした。

1株当たり利益は1.74CHFで、前年同期の1.67CHFを上回りました。

2006年1-9月期の純利益は66億5,400万CHFでした。前年同期の純利益は47億4,700万CHF
 でした。

2006年第3四半期の新規純資産は310億CHFでした。

決算ハイライト

単位：百万CHF	2006年 第3四半期	2006年第2 四半期からの 増減率（%）	2005年第3 四半期からの 増減率（%）	2006年 1-9月期	2005年 1-9月期からの 増減率（%）
純営業収益	8,076	(8)	(1)	27,789	21
総営業費用	5,656	1	0	17,894	7
純利益	1,892	(12)	(1)	6,654	40
自己資本収益率：グループ	18.9%	-	-	21.7%	-
自己資本収益率：バンキング	19.0%	-	-	23.4%	-
1株当たり利益（CHF）	1.74	-	-	6.00	-
BIS第1分類資本比率（当四半 期末現在）	10.8%	-	-	-	-

クレディ・スイス・グループ最高経営責任者のオズワルド・グリューベルは次のように述べてい
 ます。「2006年1-9月期は純利益が前年同期を40%上回り、全体として好調な業績を達成しま
 した。第3四半期はウェルス・マネジメントの業績が季節的な要因によって低迷し、一方インベ
 ストメント・バンキング部門は、債券が好調であったものの、株式トレーディングの減収がマイ
 ナスの影響を与えました」。

「バンキング業務を統合したビジネスモデルは引き続き進展を見せており、持続的な収益力向上のため一層の努力を進めていきます」（グリューベル）。

クレディ・スイス部門別業績

単位：百万 CHF		2006年 第3四半期	2006年第2 四半期からの 増減率（%）	2005年第3 四半期からの 増減率（%）	2006年 1-9月期	2005年1-9 月期からの 増減率（%）
インベストメント バンキング	純営業収益	4,191	(6)	(5)	14,384	22
	総営業費用	3,452	10	(1)	10,833	3
	継続事業からの 税引前利益	758	(41)	(19)	3,609	175
プライベート バンキング	純営業収益	2,682	(8)	(1)	8,705	12
	総営業費用	1,679	(6)	0	5,284	8
	継続事業からの 税引前利益	1,022	(9)	(1)	3,453	17
アセット マネジメント	純営業収益	692	3	7	2,123	4
	総営業費用	535	(18)	19	1,704	33
	継続事業からの 税引前利益	158	485	(21)	419	(45)

インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門の2006年第3四半期の継続事業からの税引前利益は7億5,800万CHFで、前年同期比19%減となりました。純営業収益は前年同期比5%減の41億9,100万CHFで、これは主に株式トレーディング収益の低下によるものです。株式引受、アドバイザリー、その他の手数料収入が前年同期を下回りましたが、債務引受および債券トレーディング収入の増加によって一部相殺されました。総営業費用は前年同期比1%減でした。これは主に減収にともなう未払従業員報酬費用の減少によるものですが、取引高の増大にともなう手数料関連費用の増加によって一部相殺されました。当四半期の営業収益に占める従業員報酬の割合は53.5%で、2005年通年レベルから2%ポイント改善しました。当四半期の税引前利益マージンは前年同期の21.3%から18.1%に減少しました。当四半期の税引前平均経済リスク資本利益率は、前年同期の28.9%から21.5%に減少しました。2006年1-9月期の税引前利益マージンは25.1%、税引前平均経済リスク資本利益率は32.8%でした。

プライベート・バンキング部門

ウェルス・マネジメントとコーポレート&リテール・バンキングの二事業から構成されるプライベート・バンキング部門の2006年第3四半期の継続事業からの税引前利益は10億2,200万CHFで、前年同期の実績とほぼ同じでした。当四半期の純営業収益は前年同期を若干下回り、26億8,200万CHFでした。これは預かり運用資産の増加によって資産ベースの収益が好調であったものの、当四半期の大半にわたる顧客活動の低迷によって取引ベースの収益が減少したことにより相殺されたためです。総営業費用は前年同期と変わりませんでした。これはウェルス・マネジメントで現在進めている業績拡充計画に関連した人件費の増加が、未払成果関連報酬の減少と継続的なコスト管理によって相殺されたためです。当四半期の税引前利益マージンは38.1%で、前年同期とほぼ同じでした。

ウェルス・マネジメントの2006年第3四半期の継続事業からの税引前利益は6億8,400万CHFで、前年同期の実績を5%下回りました。これは純営業収益が若干減少し、総営業費用が若干増加したためです。当四半期の税引前利益マージンは37.1%で、前年同期を1.6%ポイント下回りました。新規純資産は109億CHFで、当四半期の継続4四半期平均成長率は7.2%でした。

コーポレート&リテール・バンキングの2006年第3四半期の継続事業からの税引前利益は3億3,800万CHFで、前年同期の実績を7%上回りました。これは主に総営業費用の減少によるものです。当四半期の税引前利益マージンは、前年同期を3.2%ポイント上回る40.3%でした。当四半期の税引前平均経済リスク資本収益率は48.1%で、前年同期を8.1%ポイント上回りました。

アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の2006年第3四半期の継続事業からの税引前純利益は1億5,800万CHFで、前年同期の実績を21%下回りました。当四半期の総営業収益は6億9,200万CHFで、前年同期比7%増となりました。これは主に過去12ヶ月の預かり運用資産の増加によって、資産運用収入が拡大したためです。プライベート・エクイティおよびその他の投資関連利益は8,900万CHFで、好調であった前年同期の実績を36%下回りました。当四半期の総営業費用は前年同期比19%増で、これは主にアセット・マネジメント部門の組織再編に関する費用の計上、従業員報酬および支給手当の増加、および手数料関連費用の増加によるものです。当四半期の税引前利益マージンは22.8%で、前年同期を8.1%下回りました。当四半期の新規純資産は212億CHFでした。2006年9月30日現在の預かり運用資産は合計6,596億CHFで、そのうち1,353億CHFはオルタナティブ投資資産です。

新規純資産

ウェルス・マネジメントの2006年第3四半期の新規純資産は109億CHFで、これは世界全地域の主要市場から資産を獲得できたためです。ウェルス・マネジメントの2006年1-9月期の新規純資産は419億CHFで、この伸び率は年率換算ベースで8.1%です。アセット・マネジメント部門の2006年第3四半期の新規純資産は212億CHFで、これにはオルタナティブ投資資産62億CHFが含まれています。これによりクレディ・スイス・グループ全体の当四半期の新規純資産は310億CHFとなりました。グループ全体の運用資産総額は2006年9月30日現在1兆4,543億CHFで、2006年6月30日現在の実績を6%上回りました。

ウインタートウル保険

2006年第2四半期前からウインタートウルの業績はクレディ・スイス・グループから切り離された事業部門として報告することになりました。2006年6月に発表されたウインタートウルの売却合意によって、現在ウインタートウルはクレディ・スイス・グループの財務業績上、非継続事業として扱われています。2006年第3四半期のウインタートウルの非継続業務による利益は税引後ベースで4億2,400万CHFでした。

今後の見通し

クレディ・スイスは、企業の強い財務力、金融業界のたくましさ、新興成長市場の成長可能性などに鑑み、2007年の経済展望は明るいと考えています。エネルギーとコモディティ価格が世界的に据え置かれており、向こう数ヶ月のグローバル金利はごく小幅な上昇に留まるものと思われれます。さらに、株式市場は周期的な後退はありうるものの、さらに上昇する可能性があると考えています。年末に向けてクレディ・スイスの事業は好調に推移していく見込みです。

本件に関するお問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ

梶野 勇

Tel 03 4550 9893

Email isamu.kajino@credit-suisse.com

クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開し、アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界 50 ヶ国以上に拠点をもち、約 40,000 人の従業員を有しています。

予測情報に関する注意事項

本プレス・リリースには予測情報に該当する記述が含まれています。さらに、将来、当社および当社に代わって他の者が予測情報に該当する内容の声明をおこなう場合があります。かかる予測情報には当社の計画、目的もしくは目標に関する声明、当社の将来的な業績もしくは見通し、一定の偶発事由による当社の業績に対する潜在的な影響およびかかる声明の基礎となる前提事項などが含まれます。「信じている」、「期待している」、「予期している」、「企図している」、「計画している」およびこれらに類似の表現は予測情報であることを示すために使用していますが、予測情報かどうかを見分ける決定的な要因ではありません。適用される法律により要求される場合を除き、当社は特にこれらの予測情報を更新することは予定していません。予測情報の性質上、予測情報には一般的または具体的な固有のリスクや不確定要因が伴い、予想、予測、見通しおよび予測情報に記載もしくは暗示されたその他の結果が達成されないリスクが存在します。いくつかの重要な要因によって、実際の結果が予測情報に含まれる計画、目的、予想、予測および企図と大幅に異なる場合があります。留意して下さい。これらの要因には以下のものが含まれます。(i) 市況および金利の変動、(ii) 一般的には世界的な経済力、および特に当社が業務をおこなう国の経済力、(iii) 相手方の当社に対する義務履行能力、(iv) 会計、金融、貿易および税務の方針の影響およびこれらの方針の変更ならびに為替変動、(v) 戦争、社会不安、およびテロなどの政治的、社会的情勢、(vi) 当社が業務をおこなう国における外国為替管理、公用徴収、国有化もしくは資産の没収、(vii) 十分な流動性を維持し、資本市場に参入する能力、(viii) システム故障、人的エラー、もしくは手続の適正な処理不能等の業務運営上の要因、(ix) 当社が業務をおこなう国における、規制当局による当社の事業および活動に対する措置、(x) 法律、規制および会計原則もしくは実務の変更による影響、(xi) 当社が業務をおこなう地理的な地域および営業地域における競争、(xii) 有能な人材を保有し、採用する能力、(xiii) 当社の評判を維持し、ブランドを促進する能力、(xiv) 市場を拡大し、費用を管理する能力、(xv) 技術の変化、(xvi) 当社の新商品および新サービスの適時の開発および導入、ならびに顧客による当該新商品および新サービスの認識された全体的な評価、(xvii) 買収、および買収後の事業統合を成功させる能力、(xviii) 訴訟およびその他の偶発事由による不利な結果、および (xix) 当社の上記リスクに関する管理能力。上記の重要な要因のリストはすべての要因を列挙したものではありません。予測情報を分析する場合、上記の要因およびその他の不確定要因および事由を注意深く検討すると共に、米国証券取引委員会に提出された当社の直近のフォーム 20-F およびフォーム 6-K に記載されたリスクをも検討して下さい。